

## 京都府内初の流行性出血病ウイルス血清型 6 の検出と浸潤状況調査（第 1 報）

京都府中丹家畜保健衛生所

○山田 柚衣      杉浦 伸明

【はじめに】流行性出血病ウイルス血清型 6（以下、EHDV-6）は牛の嚥下障害や流死産への関与の報告あり。府内の流死産 2 事例から EHDV-6 を検出。概要と浸潤状況調査結果を報告。【事例①】令和 6 年 10 月 16 日、南丹管内の肉用牛繁殖農場で 1 頭流産（初産、胎齢 184 日）。胎子に感染症を疑う所見認めず。母牛から既知の異常産関連ウイルス遺伝子検出せず、EHDV-6 遺伝子を検出。同居牛 6 頭中 5 頭からも EHDV-6 遺伝子検出。【事例②】令和 6 年 11 月 10 日、中丹管内の酪農場で 1 頭死産（6 産目、胎齢 276 日）。胎子に感染症を疑う所見認めず。母牛から既知の異常産関連ウイルス遺伝子、EHDV-6 遺伝子ともに検出せず。同居牛 22 頭中 2 頭から EHDV-6 遺伝子を検出。【浸潤状況調査】令和 6 年に採材した未越夏牛の血液（8、9、11 月採血）、9 農場延べ 71 検体について遺伝子検査実施。9 月以降に南丹・中丹管内の 4 農場 15 検体から遺伝子を検出し、うち 1 検体からウイルスを分離。分離ウイルスを用いた抗体検査により、事例①及び②の母牛及び同居牛から抗体検出。先の遺伝子検出した未越夏牛から抗体を検出し、府内への浸潤を確認。【まとめ】EHDV-6 は 9 月に府内へ侵入したと推察。本ウイルスについてはいまだ不明な点が多く、今回の流死産 2 事例への関与は不明。有効なワクチンもない中、媒介昆虫対策等飼養衛生管理の重要性について啓発を強化する必要あり。引き続き調査・解析、他県との情報交換等を行う。